

第3学年国語科学習指導案

日時：令和4年11月9日（水） 5校時

学級：花巻市立花巻中学校3年2組

会場：3年2組 教室

授業者： 菊地 純

1 単元（題材）名

夏草―「おくのほそ道」から ～芭蕉にとっての「旅」とは

2 単元（題材）について

（1）生徒について

本学級の雰囲気は明るく、行事にも前向きに取り組むことができる。国語の授業においても、知的好奇心が旺盛で、自分で調べたりまとめたりすることに対して大変意欲的である。発言も活発で、学習に対する態度は大変前向きである。学習活動が盛り上がる反面、その場限りになってしまい、学習内容が十分に定着していないことがよくある。今後は、調べたりまとめたりしたことを互いに共有し合う言語活動を取り入れることで、互いに学び合いながら自分の考えを更に深め、学習内容の定着を図っていききたい。

本学級の生徒は、90パーセントの生徒が「国語の学習が好き、どちらかといえば好き」と答え、国語の学習についても95パーセントが「分かる、どちらかといえば分かる」と答えている。しかし、古文の学習については71パーセントが古文の学習が好きではないと感じている。その原因として古語の意味や古文独特の文章表現、歴史的仮名遣いなどに対して抵抗感を持っているからであろう。古人の考え方を今の視点で理解すること、日本の昔からの文化を知ること、日本人の心を現在・未来につなぐことなどを、古文を学ぶ意義としてあげる生徒も多い。だからこそ、繰り返し昔の人々の心に寄り添い、考えを深めていくことが、古文に対する抵抗を取り除き、古典に親しむ姿勢を育てていくと考える。

（2）教材について

本教材では、言語文化（3）ア「歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。」C読む（1）オ「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持つことができる。」を指導するものである。「おくのほそ道」に表現されている松尾芭蕉の「旅」に対する考え方やものの見方・感じ方などを読み取り、さらに複数の場面を読むことによって現代との相違点や共通点を発見し、昔の人の思いに迫りながら自分の考えを持つことで古典の世界への親しみを深めていきたい。

古典学習も今回で中学校のまとめとなる。中学校1年時から一貫して古典の世界に親しみ、現在にも生き続ける昔の人々の価値観や姿勢などを学んできたが、本教材でも「旅」というキーワードを通じて、芭蕉のもつ人生観を読み解いていく。閉塞感を感じる昨今の情勢ではあるが、生徒一人ひとりの「旅」へのイメージを膨らませながら、自分の人生の「旅」についても考えさせていきたい。

（3）指導について・研究との関わり

『主体的に学び続ける生徒の育成』～いわての授業づくり3つの視点からの授業改善～

①学習の見通し

・課題解決の方法や過程についての見通しを持ち、振り返ることができるよう、ワークシートや資料の提示を工夫する。

②学習課題を解決するための学習活動

・古文から読み取ったことをまとめたり、芭蕉のものの見方や感じ方についての自分の考えを発表したりす

る際に、生徒同士で意見を交流する時間を設ける。

③学習の振り返り

- ・単元や題材のまとめりなど内容ごとに、学習内容や学習方法、課題解決の過程等、学んだことを自覚できるように振り返りシート（単元の振り返り含む）等を活用する。

(4) 単元（題材）の目標

【知識および技能】

- ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。[言語文化(3)ア]

【思考力、判断力、表現力等】

- ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持つことができる。[C読む(1)オ]

【学びに向かう力、人間性等】

- ・積極的に古典にあらわれた「旅」に対するものの見方、考え方をとらえて、学習の見通しを持ち、自分が考えたことを伝え合おうとしている。

(5) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。[(3)ア]	・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。[C(1)オ]	・積極的に古典にあらわれた「旅」に対するものの見方、考え方をとらえて、学習の見通しを持ち、自分が考えたことを伝え合おうとしている。

(6) 指導と評価の計画

時	・学習活動	観点			・評価規準【評価方法】
		知	思	態	
1	○「おくのほそ道」や松尾芭蕉について基礎知識をもつ。	○			[知識・技能] ・「おくのほそ道」や松尾芭蕉について基礎知識をプリントにまとめている。(ワークシート)
2	○「1」を朗読し、松尾芭蕉の「旅」に対する思いを読み取り、現代の旅が持つ意味を比較する。	○			[知識・技能] ・「1」の松尾芭蕉の「旅」に対する思いをよみとり、現代の旅が持つ意味を比較し、自分の意見を持っている(ワークシート)
3	○「2」の前半を朗読し、「高館」での芭蕉の思いを想像する。	○			[知識・技能] ・「1」から読み取れるものの見方や感じ方についてまとめ、話し合っている。(ワークシート・観察)
4	○「2」の後半を朗読し、「光堂」での芭蕉の思いを想像する	○			[知識・技能] ・「2」から読み取れるものの見方や感じ方についてまとめ、話し合っている。(ワークシート・観察)

5 本時	○「おくのほそ道」の資料から一句を選び、芭蕉の「旅」に関する思いをとらえ、それに対する自分の意見を交流する。		○	○ [思考・判断・表現] ・「おくのほそ道」から読み取れる芭蕉のものの見方、感じ方をふまえ、他の紀行文などを読み取りながら「旅」について自分の考えを述べている。(ワークシート) [主体的に学習に取り組む態度] ・積極的に古典にあらわれた「旅」に対するものの見方、考え方をとらえて、学習の見通しを持ち、自分が考えたことを伝え合おうとしている。(ワークシート・観察)
---------	--	--	---	---

3 本時について

(1) 目標

「おくのほそ道」から読み取った芭蕉のものの見方、感じ方をふまえ、他の紀行文などを読み取りながら「旅」について自分の考えを述べることができる。

(2) 評価規準

「おくのほそ道」から読み取った芭蕉のものの見方、感じ方をふまえ、他の紀行文などを読み取りながら「旅」について自分の考えを述べている。

積極的に古典にあらわれた「旅」に対するものの見方、考え方をとらえて、学習の見通しを持ち、自分が考えたことを伝え合おうとしている。

(3) 本時の指導構想（研究主題との関わり）

前時まで、時間の経過自体が旅のようなものであり、人生とは旅そのものであるという芭蕉の「旅」に対する考えを読み取り、また、「旅」を通じて古人への共感を強くするとともに、人間の営みのはかなさ、人間の変化流転をも包み込む自然の悠久さを感じてきたことも学習してきた。その中で生徒は現代の「旅」との共通点や相違点を感じ取ってきた。

そこで本時は、今までの学習で芭蕉の「旅」に対する思いをクローズアップして他の紀行文を鑑賞し、その表現がどのように心に響いたかを、自分の思いや体験に基づいて述べさせるとともに、他の生徒に学ぶことで、自分の考えを深める機会を持たせたい。

研究主題との関わりとして、ワークシートや資料の提示を工夫することで課題解決の方法や学習過程についての見通しを持たせようと考えている。また、古文から読み取ったことをまとめたり、芭蕉のものの見方や感じ方についての自分の考えを発表したりする際に、生徒同士で意見を交流する時間を設け、課題解決の一助としたい。学習の振り返りについては、話し合った内容を、さらに考えを発展させて記入することで、学んだことを自覚できるような振り返りシート（単元の振り返り含む）を工夫したい。

(4) 展 開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評 価
導入 10分	1 前時までの復習を行う。 2 課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 松尾芭蕉の旅に対する考え方、古人に対するあこがれ、旅の最中で感じた人間の営みのはかなさなどについて確認する。 	
展開 35分	<div data-bbox="352 524 1144 680" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習課題 芭蕉の「旅」への思いを捉え、自分の考えを伝えよう。 </div> 3 「おくのほそ道」の資料を見ながら3つの紀行文について鑑賞する。 4 3つの紀行文から、自分の心に響くものを一つ選び、鑑賞プリントに記入する。 5 鑑賞の内容を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 「おくのほそ道」の旅程を確かめながら、3つの紀行文の場面や古語の意味を確認し、現代語訳や資料を参考にどのような芭蕉の「旅」に対する思いが感じられるか、捉える。 表現された情景や芭蕉の思いをさらに深く想像し、根拠となった表現や内容、自分の意見などをワークシートに記入させる。 ワークシートに記入した自分の意見を発表し合う。 気付いたことや感じたことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文から読み取れる芭蕉のもの見方、感じ方をふまえ、他の紀行文などを読み取りながら「旅」について自分の考えを述べている。 [思考・判断・表現] ワークシート 積極的に古典にあらわれた「旅」に対するもの見方、考え方をとらえて、学習の見通しを持ち、自分が考えたことを伝え合おうとしているかを確認する。 [主体的に学習に取り組む態度] ワークシート・観察
終末 5分	6 本時の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉の「旅」に対する思いについて考えが深まったことや級友の意見に学んだことを振り返る。 	